

1. 調査報告概要表

作成日 平成 19年 10月 30日

【評価実施概要】

事業所番号	4271800320
法人名	社会福祉法人 幸生会
事業所名	グループホーム わたづみ
所在地	長崎県対馬市豊玉町仁位9 1 番地 3 (電 話) 0920-58-2111
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎市桜町 5 番 3 号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成19年10月17日

【情報提供票より】 (平成19年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年1月5日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 5人, 非常勤 2人,	常勤換算 5.6人

(2) 建物概要

建物構造	平屋 造り
	1 階建ての 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	3,000円		その他の経費（月額）	円
敷金	無			
保証金の有無 （入居一時金含む）	無		有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり780円			

(4) 利用者の概要 (4月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護 1	3 名	要介護 2	1 名		
要介護 3	3 名	要介護 4	2 名		
要介護 5	0 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 83.5 歳	最低 72 歳	最高 92 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	豊玉診療所・豊玉耳鼻咽喉科・内科・大浦歯科医院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

特養・デイサービス・グループホームが併設され、日々の介護の他行事や避難訓練等を協力して行っている。理念を日々の介護に活かし、家庭的な生活環境の下利用者が残存機能を活用しながら生活できるよう、必要以上に職員が手を貸さず利用者ができることは時間が経ってもしてもらうようにしている。近所に民家が少なく環境の中でも、地域の文化祭に参加する等地域との交流に努めている。前回の外部評価の結果を踏まえての検討・改善については、理念の啓発の為にホーム便りの作成を予定したり、緊急時の手当に対して職員が不安にならないよう、看護師に応急処置の研修をしてもらっている。運営推進会議のメンバーで別のグループホームを訪問する等、利用者へのより良い介護提供へ向けて努力している。研修参加については、近隣での研修が少ないにも関わらず積極的に参加しており、職員の研修参加への希望も考慮されている。研修報告書についても提出がされており、ケア会議の際に研修内容の発表をする等、研修の内容が職員間で共有されている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目：外部4)
	前回評価時の要改善項目については、検討・改善がなされていた。理念の啓発や家族への日常の様子に関する情報提供については、ホーム独自の便りを作成予定であり、現在は隣接する特養の便りにグループホームの分を載せてもらっている他、利用者の写真付きの手紙を家族へ郵送している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目：外部4)
	自己評価・外部評価をホームの課題抽出の機会と理解しており、自己評価については職員と話し合いながら取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目：外部4, 5, 6)
	運営推進会議の内容については、外部評価結果の公表や改善についての話し合いの他、勉強会として他のグループホームを訪問する等行っており、より良い介護提供へ向けた取り組みが行われている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目：外部7, 8)
	来所時や家族会の際に職員との話し合いの場が持たれており、意見や要望を聞き出すようにしている。直接出しにくい家族の意見や苦情については意見箱を設置し、意見等が出された場合には苦情解決委員会で改善に努めている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携 (関連項目：外部3)
	運営推進会議に市の職員に参加してもらう他、地域の文化祭への参加・出品の依頼等がある。制度の変更時等わからないことがあった際には、職員が市町村へ出向き指導してもらう等の連携がとれている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念ではなく事業所独自の理念であり、その内容は残存機能の活用や自立生活の見守・支援等となっている。地域密着型サービスが開始される前から理念の追加・変更はされていない。	○	現在のところ、地域との関係性を表現しているような文言が理念にないため、地域との関係性についても理念に謳うことに期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日のミーティング等の際に理念を確認するようにしており、理念を基に日々のケアに取り組んでいる。理念の一つである残存機能を活用できるよう、本人ができることは時間がかかってもしてもらうようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	買い物等に利用者と一緒に出掛けており、店の人との顔馴染みの関係ができている。近隣の学校の運動会へ見学に行ったり、地域の文化祭に出品・参加している。行事計画については、春は花見、秋は紅葉見学等大まかなものについては計画が立てられている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価をホームの課題抽出の機会と理解している。自己評価の際は項目の意味やねらいを考えながら、職員と相談しながら行った。ケア会議や運営推進会議の際に、外部評価の結果を踏まえての改善策等について話し合いを行い、改善に取り組んでいる。		

グループホームわたづみ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、利用者や家族の代表他地域包括支援センターの職員等に参加してもらっている。外部評価の結果と改善等について話し合っている。議題については、ホーム側が提案している。ホームの質の向上に繋げるため、運営推進会議のメンバーで他のグループホームを訪問することもある。運営推進会議の内容が参加者でしか共有されていない。	○	議事内容について家族への請求書を郵送する際に同封する等、内容を共有する取り組みに期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	制度の改正等について、わからない点については尋ねるようにしている。市町村から地域の文化祭への出品・参加依頼が来る等、関係作りができています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年1回程度家族会を開いている。金銭出納については、出納帳のコピーを月に1回郵送している。前回の外部評価の要改善項目である「家族への日常の様子を知らせる取り組み」として、利用者の様子を手紙で郵送している。今後ホーム便りの発行も考えている。定期受診以外の受診については、その都度連絡するようにしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所の際に話をする他、家族会の際に一緒に食事をしながら意見や要望を聞き出すようにしている。実際に家族から「部屋でリハビリをして欲しい」との希望が出され、廊下を使ったりリハビリを行うようにした。受付に苦情箱を設置しており、意見が出された際には苦情解決委員会において話し合い、解決するようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動の場合はすぐ近くの施設への異動なので、顔馴染みの関係が継続できるようになっており、利用者に不安を与えることが少ない。職員の退職については法人内のホーム便りで、異動については家族が来所した際や家族会の際に説明している。		

グループホームわたづみ

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の日程を早めにわかるようにし、研修参加によるシフトの調整ができるように心がけている。研修への参加者は管理者と施設長が検討しているが、職員から参加希望が出た場合には希望を聞き入れている。研修報告書を作成しており、職員で回覧する等して研修内容の共有ができています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	まだ具体的な活動計画は立てられていないということであったが、対馬地域連絡協議会が設立されたため交流の機会が持てるようになった。ホーム側から働きかけ、運営推進会議のメンバーで同一市内のグループホームの施設見学を実施した。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に事前に本人や家族と面談を行い、ケアマネージャーがアセスメントを取るようになっている。利用者がホームに早く馴染めるように、よく会話するようになっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共に暮らす同士として利用者の感情や希望が汲み取れるように、状態をよく見て会話するようになっている。職員が肩が痛いと言ったら、利用者が肩もみしようかと言う等、支え合う関係作りができています。		

グループホームわたづみ

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の利用者の言動や入居時のアセスメントや生活歴を基にして毎月のケア会議で話し合う他、面会時に家族から意見を聞くようにしている。実際に利用者から外出等の希望が出された際には、可能な限り支援するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用者の意見や日々の様子、来所時の家族の意見等を基にホーム側が介護計画を作成し、それを家族に確認してもらい、追加事項等があった場合には再度作り直すようにしている。来所時に介護計画に承認印をもらうようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは状態が安定した人でも半年に1度行われている。途中で変化があった際等必要があればその都度、介護計画を見直している。計画内容が変更になった際には職員間で話し合いや意見交換を行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医が遠方の場合でも、そこで診察を受けたい等の希望が出された際には支援する等、利用者や家族の要望に応じた支援を行っている。		

グループホームわたづみ

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医で受診できるように支援している。市の診療所をかかりつけ医としており、かかりつけ医がいない利用者への対応もできている。必ず通院介助は職員が行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	隣接する特養と共に重度化に対応した指針の作成を進めている。ターミナルケアが必要になった場合は併設の特養への転居をお願いしているため、ホーム自体でのターミナルケアはこれまでない。	○	指針の作成は進められているが、重度化に対応した説明や書類は作成されていない。早い段階からの話し合いや方針の共有ができるように書類等の整備に期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報に関するファイル等は職員室のキャビネットに保管され、外部の人は見ることができない状態になっている。利用者のトイレ誘導や着衣については、他の利用者に気付かれないように誘導・支援を行っている。法人内の広報等に利用者の写真を掲載する際は家族の同意書をもらうようにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	電話や買い物等、利用者の希望にできるだけ沿えるように支援している。朝食の時間については、利用者の起床時間に合わせている。利用者の一日の過ごし方を介護日誌等を基に把握するようにしている。		

グループホームわたづみ

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は食事の準備や後片づけを職員と一緒にに行っている。利用者の希望を聞いて、献立を作成している。介助が必要な利用者については、職員と一緒に居室で食事をしているが、その他の職員は一緒に食事をしていない。	○	テーブルに座って食事しているのが利用者だけで、他の職員は見守りに徹していた。利用者とのコミュニケーションを図る上でも、一緒にテーブルに座る等の取り組みに期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は午後から夜の7時までと時間制限はあるものの、毎日入浴できるよう支援している。入浴を嫌がる利用者には無理強いをせず、時間をおいて声かけを行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	新しい利用者が入った際には、個別ファイルを全職員で回覧し生活歴等を把握した上で、趣味や生活歴を活かせるように支援している。畑作業をしていた利用者と一緒に畑仕事をする、朝食を作る為に早起きしていた利用者に食事作りを手伝ってもらう等。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎月1回バスハイクを行っている。3日に1回程度の買い物の際に利用者と一緒に出掛けている。歩行が困難な利用者でも、他の利用者と外出の頻度は変わらず、本人が希望すれば外出を支援している。墓参り等、利用者から希望が出された際には支援できる体制はある。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間は施錠せず、夜間のみ施錠している。よく外に出て行く利用者は職員が把握しており、注意して定期的に状態を確認し、玄関が見渡せる場所で見守りをするよう心がけている。		

グループホームわたづみ

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	消防機関との連携のもと、併設する特養と合同で年2回程度避難訓練を実施しており、そのうち1回は夜間を想定している。災害発生時等の緊急連絡網を作成し、職員室に掲示している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食物摂取量や水分摂取量は個人別に毎日記録を取るようにしている。利用者の食べ残し等から嗜好を把握するようにしている。隣接する特別養護老人ホームの栄養士に栄養バランスを見てもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	手作りのカレンダーや季節の花を飾ることによって、季節感が感じられるようにしている。居間のテレビを大型に変え、ソファを設置したところ、居間に集まる利用者が増え利用者同士の交流の機会が増えた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は畳とフローリングの2タイプがある。居室への持ち込みに制限はなく、それぞれ好きな物を持ち込まれている。カーテン等備え付けの物も、利用者の希望があれば変えていっている。		

※  は、重点項目。